

通算山行NO	707~1994~34 (44.5月)	報告者	後藤
年月日	94年 11月 11日 (金曜日) ~	年 11月 12日 (土曜日)	
山行名	晩秋の百名山二峰と温泉		
山名	金峰山 (2595m・深田百名山)、瑞牆山 (2230m・深田百名山)		
コース及 タイム	1/1(備)三島 13:30~瑞牆山荘 16:30(車中泊) 1/2(快晴)起床 1:50~出発 3:00- 富士見平 3:50-大目小屋 4:50-大目岩 5:20-金峰山 7:30~7:45-大目岩 9:00 -ハジ平 10:00-ヤナギ坂(天鳥川) 10:50-瑞牆山 12:15~12:55-天鳥川 13:50-富士見平 14:25-瑞牆山荘 15:00~入浴~三島 19:30		
標高差	△みながき山荘~金峰山 $\neq \frac{1095}{430}$ m 天鳥川~みながき山 $\neq \frac{1525}{}$ m	困難度 危険度	金峰山日陰凍結あり 大目岩トバノス崩壊あり
走行距離	三島 ~ 瑞牆山荘 $\neq 100$ Km	自然度	良い。特にハジ平周辺
参加者 役割	CL 後藤、大川 以上 2名・全体名		
1/1	心配された天気は良かった。中央高速を須玉(すたま)で降りて増富に向う。里山には美しい紅葉が広がり、右手の第7岳が意外と大きかった。増富温泉に近づくとはるか上方に金峰山と瑞牆山が夕陽に岩峰を誇らしげに光らせていた。“やまびこうじやないか”とせむを見ても新たな興味が湧いてくる。明日のルート偵察をして早めに休んだ。		
1/2	予定通り起床。外は満天の星でとても暖かかった。ヘッドランプをつけて出発。二人の足音だけが暗い森にガクガクと響く。何人というこの非日常性。下界ではまだ乱痴気騒ぎをしている人間がいるというのに。たけど僕達はなぜかこういのが好きなんだ。 ポーターも慣れた山行態が良くかみはる。大目岩をパスするとランゾもいさなくなった。風もなく静かで美しい夜が明けた。樹林帯を抜けると岩屋根になる。岩の表面の霜が凍っているの要注意。五丈岩が近づき簡単に頂上に達した。少しモヤっているが快晴。360°の展望。あくまで富士は美しかった。ここで岩の窪みの氷を発見。やはり寒いのだ。午夏と撮って下山。僕達にはまだ次の目標があった。グンクン下る。先を歩いていた単独行に追いついた。大目岩で歓談し食物をあげる。千葉からという私と同年輩だった。ところが私のことと22年の早生かは49才と111だしあわせてさせた。大目岩の崩壊地をトバノスする。ポーターも必死でついでくる。たけど樹林帯に入ればもう大丈夫。この辺りから瑞牆山が大きく迫る。絵になる山だった。 ハジ平周辺は静かで素晴らしい気持のいい所だった。天鳥川源流は落葉したカラマツ林がつつく。そしてその梢の向うに紺碧の空をバックに瑞牆山が佇立していた。ヤナギ坂を下り天鳥川を渡るといよいよ瑞牆の登りが始まった。ちよと苦しそうなポーターだったが、こは登りを昔とせず。楽しみながら一歩一歩ゆくのだと語りかける。意外と簡単に頂上に着いた。がっすり握手。ふとつと大きなことをやりとげ瞬間だった。人ほよよと生かされる。私もすばらしいポーターのおかげで最高の“山”ができたと思った。		
観察 した花	コセンツクハチの紅葉が面白かった。カラマツは丁度富士見平(標高約1800m)を境に落葉していた。		
備考	① スし振りにハードで充実した山だった。二つの山を結ぶエリアは私もこたで持たなかった。やはりいっしょのひととつぎ合ってみるものだ。②累積標高差1525m! やりし。③ 今度は西沢~甲武信安~雁坂峠(12H)7分間も面白かった。(=4口ジョーガンです)		

